

# 日本国際理解教育学会

## 第 29 回研究大会プログラム

Japan Association for International Education  
29th Annual Conference, University of Sugiyama Jogakuen

主催：日本国際理解教育学会

共催：椋山女学園大学

後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県国際交流協会、名古屋国際センター、  
JICA 中部

会員の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、日本国際理解教育学会第 29 回研究大会を下記の日程で開催することになりました。会員の皆様はもとより、国際理解教育にご関心をお持ちの方々におかれましても、お誘い合わせの上、ご参加を賜りますようお願い申し上げます。

第 29 回研究大会実行委員長 宇土泰寛  
副委員長 林 敏博

大会会場：椋山女学園大学・星が丘キャンパス 大学会館・教育学部棟  
(〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町 17 番 3 号)

大会日程：2019 年 6 月 15 日（土）・16 日（日）

### 第 1 日目 6 月 15 日（土）

9:30 10:00 12:00 13:00 14:00 17:00 17:30 19:00

|    |        |    |    |                      |    |       |
|----|--------|----|----|----------------------|----|-------|
| 受付 | 自由研究発表 | 昼食 | 総会 | 公開シンポジウム<br>異己シンポジウム | 移動 | 情報交換会 |
|----|--------|----|----|----------------------|----|-------|

異己シンポジウム 14:00～16:30

### 第 2 日目 6 月 16 日（日）

9:00 9:30 12:00 13:00 16:00

|    |        |    |                  |
|----|--------|----|------------------|
| 受付 | 自由研究発表 | 昼食 | 特定課題研究<br>論文の書き方 |
|----|--------|----|------------------|

実践者のための論文の書き方コーチング 13:00～15:00

※6 月 15 日（土）、16 日（日）は大学構内の食堂をご利用いただけます。

お問い合わせ先：日本国際理解教育学会第 29 回研究大会実行委員会  
〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17番3号

E-mail jaie2019sugiyama@gmail.com uto@sugiyama-u.ac.jp

## 公開シンポジウム

第 1 日目 14:00～17:00 (大学会館 3 階大講義室 Spirit)

大陸を越えた学びの場としての地球子ども広場と

多文化共生の学校・地域づくり

世界は、大きな変革の時代を迎えています。かつて産業革命によって社会が一変したように、A I (人工知能) の進化は、国境を越えたネットワーク社会をつくり、カネ、モノ、情報だけではなく、ヒトの移動もボーダレスな状況を生み出しています。しかし、そこでは、地域での人々の行為が地球システムにも影響しています。私たちは、水・気候変動問題を中心に、SDGs の視点から、地球温暖化に関わるモビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)や多文化共生教育とのつながりも視野に、3 か国の先生方を交え、各国の取り組みを踏まえた協議から、大陸を越えた新たな教育の在り方を探るシンポジウムを行います。

本プロジェクトは、2010 年にブルキナファソへの椙山女学園大学附属小学校の机といすの支援交流から始まり、フランスとブルキナファソと日本での大陸間水プロジェクトとして活動を本格化しました。そして、2016 年のフランス・ブルキナファソ・日本によるミュージカルの公演「I LOVE WATER～人と水の精の物語」では、パリ協定を受けて、気候変動教育を加味し、フランス・アルザス地方の Ecole de la Vallée à Barr、Ecole Gustave Stoskopf à Strasbourg の学校とブルキナファソの Le Creuset Plus、そして、日本の名古屋市立蓬来小学校、椙山女学園大学附属小学校がお互いに連携し、実施したのです。

ミュージカルでの子どもたちからの問題提起を受け、2017 年、2018 年と各国で、水・気候変動教育への実践的研究を積み重ね、日本では、東海地域を再現したジオラマを使い、言語コードを低減し、様々な子どもたちが対話的な手法で課題を掘り下げたり、ショートストーリーを創り、それをクロマキーの合成映像で交流しあったりなど、多様な方法を開発しました。フランス、ブルキナファソの学校でも、様々な取り組み、2019 年 3 月 30 日に、パリ日本文化会館で、3 か国の子どもたちと大学生の若者も参加し、「地球子ども広場パリ公演 (Global Kids Square in PARIS)」を実施し、フランスは影絵によって、ブルキナファソは音楽と劇によって、そして日本はミュージカルによって、それぞれの地域が抱える問題と地球全体の問題を提起し、その後、協議を行い、「パリ子ども宣言」を発表したのです。

司 会： 林 敏博 (椙山女学園大学)

通 訳： フレデリック・デュマバン (フランス)

趣旨説明： 宇土 泰寛 (椙山女学園大学)

パネリスト：

フランス：クリスチャン・ガルチ (ストラスブール市プライオリティ教育コーディネーター)

ブルキナファソ：カトリーヌ・ザカネ (ル・クルーゼ学園理事長)

日 本：山本 典弘 (愛知県岡崎市立生平小学校教頭)

## 異己シンポジウム

第1日目 14:00～16:30（メディア棟 G 階 001 大講義室）

「異己」理解・共生授業プロジェクトの成果と課題

「異己」は、価値多元化社会において異なる価値観や立場をもつ相手を意味し、個人間から国家間のコンフリクトを解決する概念として着目しました。これまで、日本各地・北京・ソウルにおいて、授業研究会・理論検討等を行ってきました。本シンポジウムでは、これまでの『「異己」理解・共生授業プロジェクト』の成果と課題を検討し、今後の「異己」プロジェクトの方向性を展望します。

現在、学校教育の場では、多様な価値観と個性が衝突し、東アジア情勢は緊張感が高まっています。このようなときだからこそ、「異己」の理解、そして共生へのアプローチを、会員の皆様と考えたいと思います。

司 会 : 森茂 岳雄（中央大学）  
コメンテーター： 藤原 孝章（同志社女子大学）

趣旨説明： 釜田 聡（上越教育大学）

パネリスト：

姜 英敏（北京師範大学）  
金 仙美（韓国中央大学校）・車ボウン（ソウル教育大学院生）  
堀之内 優樹（東松島市教育委員会教育総務課専門監兼指導主事、  
前宮城教育大学附属小学校教頭）

## 特定課題研究

第2日目 13:00～16:00（大学会館3階大講義室 Spirit）

### 国際理解教育における理念研究、方法研究の到達点と今後の課題

研究・実践委員会では、3年間にわたる研究事業として「国際理解教育における理念と方法を問い直す」という一大テーマのもとに3本のプロジェクト、すなわち「グローバル時代の市民像を問う」「難民問題から国際理解教育を問う」「SDGs時代の水・気候変動教育を問う」を推進してきました。本大会では3部会による成果を共有するとともに、現代の教育課題に呼応すべく今後の研究・実践のさらなる課題を展望します。3年間の研究の集大成ですので、会員の皆さまの積極的な参加をお待ちしております。

司会・趣旨説明： 永田 佳之（聖心女子大学）

#### 第1部 分科会報告

難民問題から国際理解教育を問う

山西 優二（早稲田大学）  
横田 和子

SDGs時代の水・気候変動教育を問う

宇土 泰寛（相山女学園大学）  
曾我 幸代（名古屋市立大学）

グローバル時代の市民像を問う

嶺井 明子（筑波大学）  
菊地 かおり（筑波大学）

質疑応答・問いの共有

渡部 淳（日本大学）

#### 第2部 グループ討議 / シェアリング

進行：嶺井 明子・山西 優二・林 敏博（相山女学園大学）

まとめ

# 第1日目 6月15日（土曜日）

## 自由研究発表 第1分科会～第9分科会（10:00～12:00）

自由研究発表は、発表 20 分、質疑応答 10 分の 30 分です。30 分の発表時間終了時には、途中でであっても直ちに終了をお願いしますので、ご了承ください。

### ◆第1分科会（B307教室）

司会：工藤 泰三（名古屋学院大学）、吉村 雅仁（奈良教育大学）

- （1）グローバル教育における内容言語統合型学習（CLIL）の可能性

工藤 泰三（名古屋学院大学）

- （2）異文化能力の養成と課題 ―学生の実験経験を深める教育プログラムの実践に向けて―

道本 祐子（宇部工業高等専門学校）

- （3）グローバル力量強化のための英語の読書の学校の地区事例

―EES Happy Reading Program を中心に―

Im Jin Young（忠南大学院）

### ◆第2分科会（B308教室）

司会：山中 信幸（川崎医療福祉大学）、山西 優二（早稲田大学）

- （1）「痛み」を鍵概念とした難民問題学習 ―学習開発の視点から―

山中 信幸（川崎医療福祉大学）

- （2）難民をとりまく地域コミュニティにみる学びと参加

○林 加奈子（桜美林大学）

山西 優二（早稲田大学）

土田 千愛（東京大学・院生）

- （3）教材としての難民絵本の実践的可能性

○前田 君江（東京大学）

山西 優二（早稲田大学）

當銘 美菜（目白大学）

小野寺 美奈（東京家政大学）

- （4）ライフストーリーを通して学ぶ難民問題：人として出会うことで、難民問題と出会いなおす

○小関 一也（常磐大学）

小野寺 美奈（東京家政大学）

菊地 恵美子（早稲田大学・院生、仙台育英学園高等学校）

### ◆第3分科会 (C3 1 0 教室)

司会：石森 広美（宮城県仙台二華高等学校）、菊地 かおり（筑波大学）

- （1）主体的学習者を養成する授業づくり ～国際バカロレア CAS 活動実践から～  
菊地 恵美子（早稲田大学・院生、仙台育英学園高等学校・秀光中等教育学校）
- （2）国語教育における国際理解教育の可能性 ―国際バカロレアからの示唆―  
高松 美紀（東京都立国際高等学校）
- （3）SGH 校から IB 校へ ―成果の検証と展望―  
石森 広美（宮城県仙台二華高等学校）

### ◆第4分科会 (C3 1 1 教室)

司会：太田 満（共栄大学）、成田 喜一郎（自由学園最高学部）

- （1）中国残留日本人の体験に向き合う授業づくり  
太田 満（共栄大学）
- （2）国際社会における「理念」をいかに学ぶか  
―「貿易ゲーム」のルール改変と改変後の世界をプレイする学習を通じて―  
大山 正博（神戸大学大学院・研究員）
- （3）文化遺産の価値を相対化する地域遺産学習 ―世界遺産と台湾の文化遺産との関係性から―  
金野 誠志（鳴門教育大学）
- （4）海外から帰国した生徒の学びと問いかけの有意義性を探る  
～1980s-1990s の実践を問い直し/見通す～  
成田 喜一郎（自由学園最高学部）

### ◆第5分科会 (D3 1 3 教室)

司会：田中 泉（広島経済大学）、中山 京子（帝京大学）

- （1）Non-Formal Education (NFE) for a Society's Well-Being : A Special Focus on Women's Empowerment at the Kesennuma Knitting Company, in Japan  
HSU MON PYAI SONE（聖心女子大学・院生）
- （2）NGO が実施するグローバル人材育成とその課題 ―アジアユースサミットの事例から―  
○金田 修治（大阪府三島高等学校）  
木村 直子（京都大学大学院地球環境学舎・博士後期課程）
- （3）博学連携による構成主義的学習の可能性  
―JICA 地球ひろばの展示を活用した単元設計・実践を事例に―  
津山 直樹（中央大学・院生）
- （4）軍隊で世界市民教育の可能性と模索 ―大韓民国陸軍を中心に―  
Han Ma Eum（延世大学学校教育人類学・修士）

### ◆第6分科会 (D314教室)

司会：多田 孝志（金沢学院大学）、見世 千賀子（東京学芸大学）

- (1) 異文化を尊重する心につなげる音楽鑑賞

～日本の民謡・世界の民謡に親しむ活動を通して～

西 薫（岐阜県羽島市立小熊小学校）

- (2) 文化史の授業で“文化”の意味

—中学生たちを対象とした文化史の授業事例の分析を中心に—

Heo, Shin-Hye（Hannam University）

- (3) 国際交流協会の多文化共生事業と学校との連携における現状と課題

—浜松国際交流協会を事例として—

中澤 純一（中央大学・院生、浜松学院中学校）

- (4) 教育課程に位置づけたグローバル意識を育む授業開発と実践

～「世界旅行にでかけよう」を通した子どもの変容～

池田 花笑子（兵庫教育大学・院生、大阪市立南小学校）

### ◆第7分科会 (C405教室)

司会：釜田 聡（上越教育大学）、孫 美幸（文教大学）

- (1) 韓国済州島の民話から考える多文化共生 —日韓関係への示唆—

孫 美幸（文教大学）

- (2) 平和はどのように成り立つのか：減暴力と平和多元主義

Yi Chan Su（ソウル大学統一平和研究院）

- (3) 自国史の問い直しと国際理解教育 —日中韓共同歴史教材の活用に向けて—

齋藤 一晴（日本福祉大学）

### ◆第8分科会 (C406教室)

司会：石川 一喜（拓殖大学）、宮野 祥子（千葉大学）

- (1) 国際理解教育におけるコミュニケーション力育成方法としての演劇ワークショップ

—コミュニケーションの共創モデルの観点から—

宮野 祥子（千葉大学）

- (2) アフリカにおける実践型プログラムの成果と課題

山崎 瑛莉（上智大学）

- (3) 脱北家庭の二人の子どもの家庭と教育環境に対する考察

Lim Hae Kyoung（延世大学校教育学科・博士課程）

- (4) SDGs は教育現場でどう展開、実践されるべきか

石川 一喜（拓殖大学）

### ◆第9分科会 (D408教室)

司会：手嶋 將博（文教大学）、藤原 孝章（同志社女子大学）

(1) 海外研修を通じた大学生の国際意識の変容

～アメリカ学校教育研修の事前・事後アンケートと面接調査から～

○手嶋 將博（文教大学）

ミクーチ淑美（Ripple 生涯教育研究所）

(2) ローカル・アイデンティティを基盤としたグローバル人材の育成

ー語学力に依拠しない日独高校生相互交流プロジェクトの実践を通してー

○由井 一成（学習院大学）

秋山 尚子（横浜市立桜丘高等学校）

(3) 国際結婚した在外日本人父親の言説分析：研究成果還元のための漫画化プロジェクト

渡辺 幸倫（相模女子大学）

(4) 教職課程における海外スタディツアーの役割

ーLGBTQ 教育の事例を通してー

西原 明希（北星学園大学）

.....

**総 会**：大学会館 3 階 Spirit （13:00～14:00）

**公開シンポジウム**：大学会館 3 階 Spirit （14:00～17:00）

**異己シンポジウム**：メディア棟 G 階 001 大講義室  
(14:00～16:30)

**情報交換会**：大学会館 1 階食堂 （17:30～19:00）

## 第2日目 6月16日（日曜日）

### 自由研究発表 第11分科会～第19分科会（9:30～12:00）

自由研究発表は、発表20分、質疑応答10分の30分です。30分の発表時間終了時には、途中でであっても直ちに終了をお願いしますので、ご了承ください。

#### ◆第11分科会（B307教室）

司会：中井 精一（大阪教育大学）、永田 佳之（聖心女子大学）

（1）「ESD授業」と学習者の変容

—大学教育でのESDのあり方、「生活科教育法」の場合—

中井 精一（大阪教育大学）

（2）持続可能な社会の基盤となる幼児教育のあり方

木戸 啓絵（岐阜聖徳学園大学）

（3）気候変動教育における教科間連携のあり方

森田 育志（神戸大学附属中等教育学校）

（4）ESDの自己評価を捉え直す：気候変動教育からの示唆

永田 佳之（聖心女子大学）

（5）The Role of the State in Education for Sustainable Development: Theoretical Perspectives

ランガガー マーク（国際基督教大学）

#### ◆第12分科会（B308教室）

司会：荒川 裕紀（明石工業高等専門学校）、伊井 直比呂（大阪府立大学）

（1）SDGs達成に資するスタディツアーの在り方について

—参加者への定量・定性調査より—

荒川 裕紀（明石工業高等専門学校）

（2）小学校における国際理解教育

～摩耶っ子SDGsにチャレンジ～

阪井 園子（兵庫教育大学・院生、神戸市立摩耶小学校）

（3）SDGsを軸とした地域貢献活動

～中学生のアイディアを活かしたまちづくりを通して～

増田 有貴（村上市立荒川中学校）

（4）済州イエメン難民事態(2018)を巡った談論競争

○Jeong Seongkyeong（史南大学学校教育社会学修士課程）

Park Hyekyung（史南大学学校教育社会学修士課程）

（5）国際理解教育のSDGsと人間開発(UNDP)への貢献

—国際理解教育、ESD、GCED、SDGs—

伊井 直比呂（大阪府立大学）

### ◆第13分科会 (C310教室)

司会：井川 和道 (椙山女学園大学)、中山 博夫 (目白大学)

(1) 移住にまつわる学びからすすめる国際理解教育

—オーラルヒストリーの活動を中心にしたサンフランシスコの小学校の事例—

田中 淳子 (サンフランシスコ大学・院生、サンフランシスコ市立クラレンドン小学校)

(2) 小学校における多文化共生教育の教材開発と実践事例

—「あたらしい ともだちが やってきた」の授業展開—

山田 文乃 (大阪市立高津小学校)

(3) 小学校における国際交流プロジェクトの活性化の手立てと大学の支援

清水 和久 (金沢星稜大学)

(4) 日本人学校における国際理解教育

～現地校との共同学習の体制づくりを通して～

大前 忍 (岐阜市立長森西小学校)

(5) 違いを違いとして認め合いグローバルな視点に立つ「国際理解教育」をめざして

—3大陸の4つの国々との国際交流活動の工夫を通して—

奥平穰士 (川崎町立川崎第二小学校 宮城教育大学協力研究員)

### ◆第14分科会 (C311教室)

司会：橋崎 頼子 (奈良教育大学)、横田 和子

(1) 声なき声を聴くことを通した道徳教育実践

○橋崎 頼子 (奈良教育大学)

小嶋 祐伺郎 (金沢学院大学)

(2) 教員免許状更新講習における国際理解教育

松井 克行 (西九州大学)

(3) Round Talk : 「語り」をプロデュースする教育実践の可能性

阿部 裕子 (東京福祉大学)

(4) 国際理解教育におけるリフレクション (1)

—難民問題学習の参加者の語りを手掛かりに—

○横田 和子

佐藤 仁美 (目白大学) 當銘 美菜 (目白大学)

岩坂 泰子 (広島大学) 岡本 能里子 (東京国際大学)

(5) 国際理解教育におけるリフレクション (2)

—難民問題学習の「実践者」としての当事者性—

○佐藤 仁美 (目白大学)

横田 和子 當銘 美菜 (目白大学)

岩坂 泰子 (広島大学) 岡本 能里子 (東京国際大学)

### ◆第15分科会 (D313教室)

司会：小関 一也（常磐大学）、祐岡 武志（阪南大学）

- (1) 市民的資質の育成に向けた世界史教育  
—新旧学習指導要領の特質に着目して—

祐岡 武志（阪南大学）

- (2) 大阪府における国際理解教育教員研修実施の現状と課題

原田 恵子（立命館大学・院生）

- (3) 高等学校音楽の歌唱表現における理解  
—文化的・歴史的背景を意識した授業の展開—

居城 勝彦（東京学芸大学附属高等学校）

- (4) 疑問から始まる探究学習を  
—ルワンダ虐殺に学ぶワークショップを例として—

風巻 浩（首都大学東京）

- (5) 民族誌資料の手触り  
—アフリカ狩猟採集社会を題材にした演劇手法を用いたワークショップ—

○飯塚 宜子（京都大学東南アジア地域研究研究所）

園田 浩司（大阪大学）

### ◆第16分科会 (D314教室)

司会：幸田 隆（豊田市立東保見小学校）、林 加奈子（桜美林大学）

- (1) 多様性を生かす、ユーモアのある学びのデザイン  
—発達障害児童と共に創る実践—

幸田 隆（豊田市立東保見小学校）

- (2) 地域に暮らす外国籍児童生徒と日本の公教育  
—現状と問題点—

佐野 真理子（大阪府立大学・院生）

- (3) 発達障がい児支援にかかわる日系人と日本人スタッフの相互理解をめざす研修の試み

山本 登志哉（一般財団法人発達支援研究所）

- (4) 他者理解教育と福祉教育のあいだで  
—視覚特別支援学校で学んだこと—

吉田 直子（東京大学・院生）

- (5) 開発教育における「共生」概念の再検討  
～コンヴィヴィアリティの視点から～

林 加奈子（桜美林大学）

### ◆第17分科会 (C405教室)

司会：市瀬 智紀（宮城教育大学）、原 瑞穂（上越教育大学）

- (1) 外国につながる複言語複文化の子どもたちの教育に関わる教員養成  
—教育の担い手としての当事者意識を育む授業—

原 瑞穂（上越教育大学・院生）

- (2) 留学生における平和意識調査 —日本語教育と平和教育の接点を求めて—

柴崎 秀子（長岡技術科学大学）

- (3) 多様な言語文化背景をもつ子どもの教育  
—人材育成における「特別視しない」という壁—

○市瀬 智紀（宮城教育大学）

齋藤 ひろみ（東京学芸大学）

中山 あおい（大阪教育大学）

浜田 麻里（京都教育大学）

- (4) 複言語・複文化児童の保護者の教育戦略  
—留学生として来日した中国系ニューカマーの母親に着目して—

内田 真人（社会福祉法人 彩の国ふかや福祉会）

### ◆第18分科会 (C406教室)

司会：小林 亮（玉川大学）、嶺井 明子（筑波大学）

- (1) Asian Students' Perceptions for Democracy and Citizenship: Using ICCS 2016

Azbarkhuja Buzurukov (Chungnam National University)

Jaeun Kim (Chungnam National University)

Kyunghee Park (Chungnam National University)

Hwanbo Park (Chungnam National University)

- (2) ユネスコの地球市民教育 (GCED) における視点取得能力の育成をめざしたアイデンティティ学習の取り組み

小林 亮（玉川大学）

- (3) 中学校におけるグローバルシティズンシップ教育の可能性  
～「持続可能な社会の創り手」を育むカリキュラムの検討に向けて～

松倉 紗野香（上智大学・院生）

- (4) グローバルシティズンシップ意識尺度の作成の試み

○伊藤 慎悟（上智大学）

松倉 紗野香（上智大学・院生）

- (5) スウェーデンの大学におけるグローバル化と国際理解

武 寛子（神戸大学）

◆第19分科会 (D408教室)

司会：大津 和子（北海道教育大学）、桐谷 正信（埼玉大学）

（1）文化・ことばを取り巻く状況に即した国際理解教育の教材開発

—異文化間誤解・摩擦事例を活用して—

周 勝男（兵庫教育大学大学院・院生）

（2）日本と中国の高校生の対話的異文化理解の試み

—一日中の高校生の変化—

渡辺 忠温（東京理科大学）

（3）立体イメージの指導に関する一考察

—米国中学生との比較調査を通して—

天野 秀樹（広島大学附属東雲中学校）

（4）個人別態度構造分析による留学の教育的価値：短期的・長期的影響に関する一考察

前田 ひとみ（目白大学）

（5）留学生と日本人学生のクリエイティブな共生を模索する大学の授業

—芸術系大学における実習型演習授業をケーススタディとして—

守内 映子（日本映画大学）

.....

**公開シンポジウム**：大学会館3階 Spirit（13:00～16:00）

**論文の書き方**：教育学部棟3階C310、311教室

（13:00～15:00）

## 大会参加費・懇親会費・昼食等

参加申し込みは、学会ホームページ「研究大会のお知らせ」のオンラインフォームからお願いします。

大会参加費、情報交換会参加費は、同封の「参加費事前納入方法について」をご覧ください。所定の口座へお振込みをお願いします。期日（2019年5月10日（金））を過ぎてからお振込みをされた方は、必ず「振込受領書」等の証明書類を受付にてご提示ください。振込みが確認できない場合は、当日大会参加費をいただくこともありますのでご了承ください。

### （1）大会参加

・参加費：事前振込： 学生・院生 2,500円 一般 3,500円

当 日： 学生・院生 3,000円 一般 4,000円

※当日の受付は混雑が予想されますので、事前にお振込みいただきますよう、お願い申し上げます。

なお、一度お振込み頂きました金額は、返金いたしかねますのでご了承ください。

振込先：（銀行名・支店名）三菱UFJ銀行 星が丘支店 （店番 276）

（種 別） 普通

（口座番号） 0322613

（加入者名） 日本国際理解教育学会第29回研究大会 宇土泰寛

（振込手数料は自己負担でお願いします。）

### （2）情報交換会

・参加費：事前振込： 学生・院生 3,000円 一般 3,500円

当 日： 学生・院生 3,500円 一般 4,000円

※会場準備の関係がありますので、事前のお申し込みをお願いいたします。

・会 場： 梶山女学園大学 大学会館1階食堂

・日 時： 2019年6月15日（土）17時30分～19時00分

## 会場案内

○ 相山女学園大学・星が丘キャンパス (<http://www.sugiyama-u.ac.jp/>)

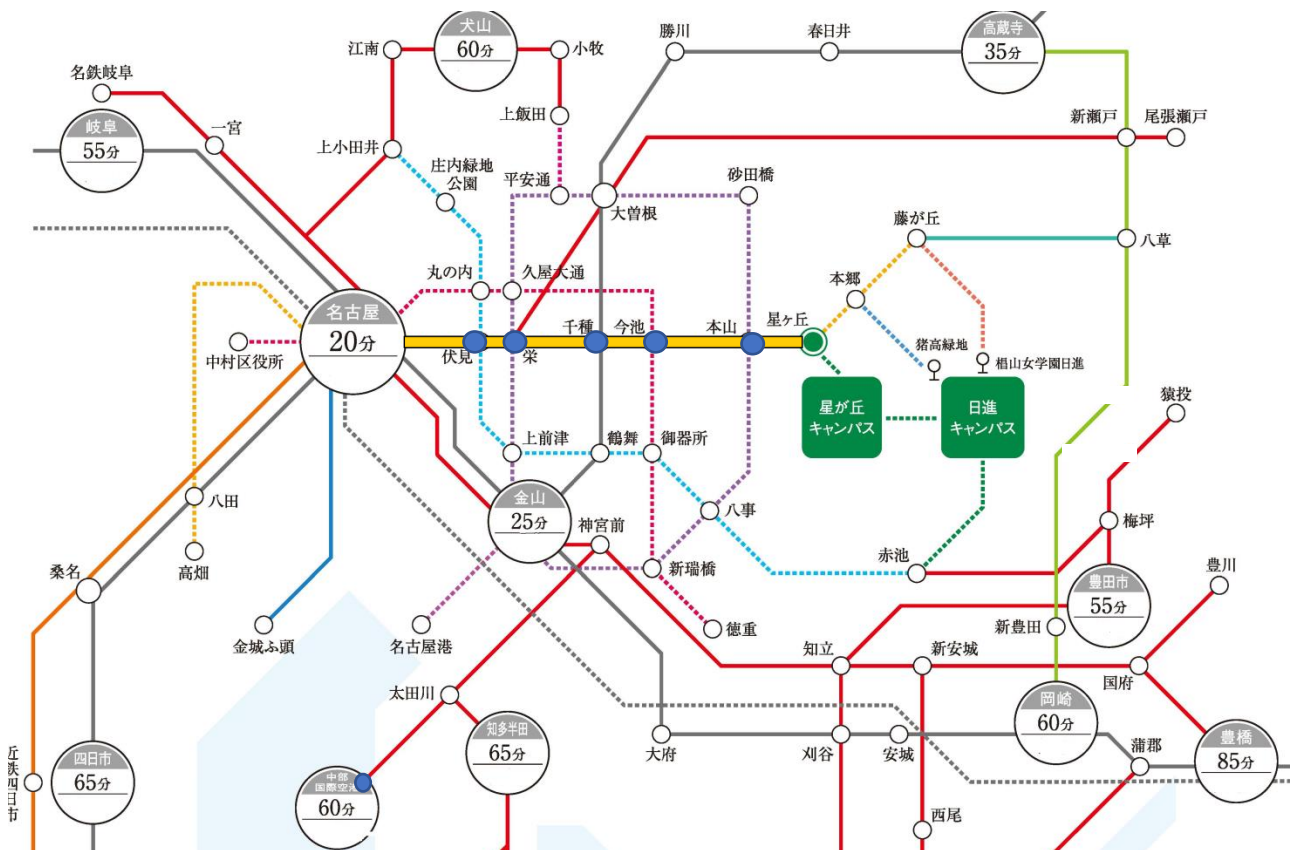
### 相山女学園大学 星が丘キャンパスへのアクセス

(星が丘キャンパス以外に、日進キャンパス、山添キャンパスがありますので注意してください。)

会場：相山女学園大学 教育学部・大学会館 (星が丘キャンパス)

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17番3号

### 名古屋・東海地域の交通マップ



地下鉄東山線 名古屋駅 20分 星ヶ丘駅下車 6 番出口

#### JR でお越しの方

JR「名古屋」駅から、名古屋市営地下鉄 東山線（藤が丘行）にて、星ヶ丘駅下車 6 番出口より徒歩 5 分

#### 飛行機でお越しの方

名古屋鉄道「中部国際空港（セントレア）」駅から名鉄空港線で「名鉄名古屋」駅で乗換、名古屋市営地下鉄東山線にて、星ヶ丘下車

FDA（フジドリームエアライン）をご利用の方は、県営名古屋空港に到着しますので、空港から名古屋駅前行の直行バス、名古屋駅からは名古屋市営地下鉄東山線にて、星ヶ丘下車

#### 高速バスでお越しの方

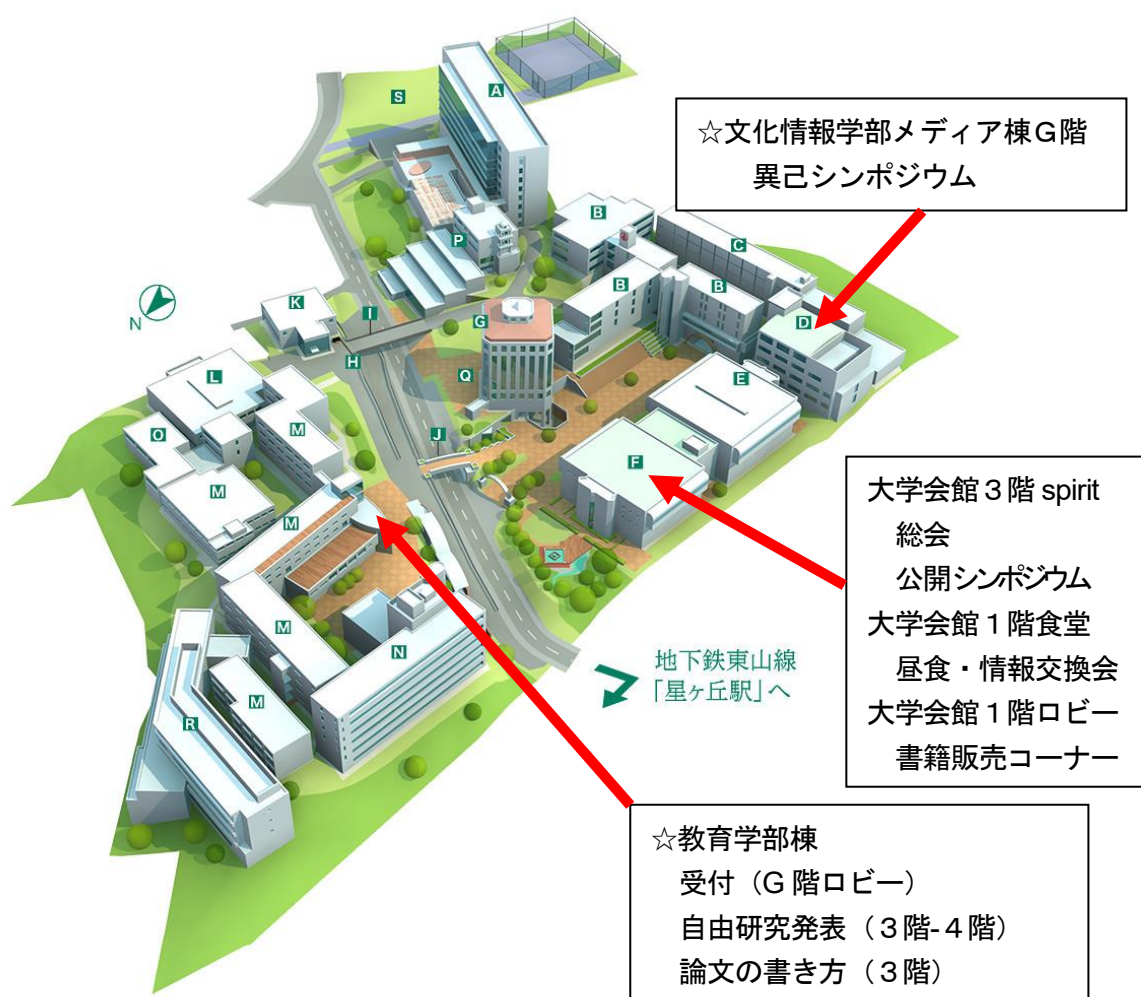
名古屋駅前にあるバスセンター（会社によって違う）で、地下鉄東山線に乗り換え、星ヶ丘下車  
東名高速を使用するバスで、相山女学園大学のある星ヶ丘に停車する高速バスもあります。

※自家用車でのご来校はご遠慮ください。



※交通アクセス・キャンパスまでの詳細は相山女学園大学ウェブサイトにある「アクセス」（動画付き）をご覧ください。

## 相山女学園大学 星ヶ丘キャンパスマップ



# 会場図－１ 教育学部棟

## 教育学部棟

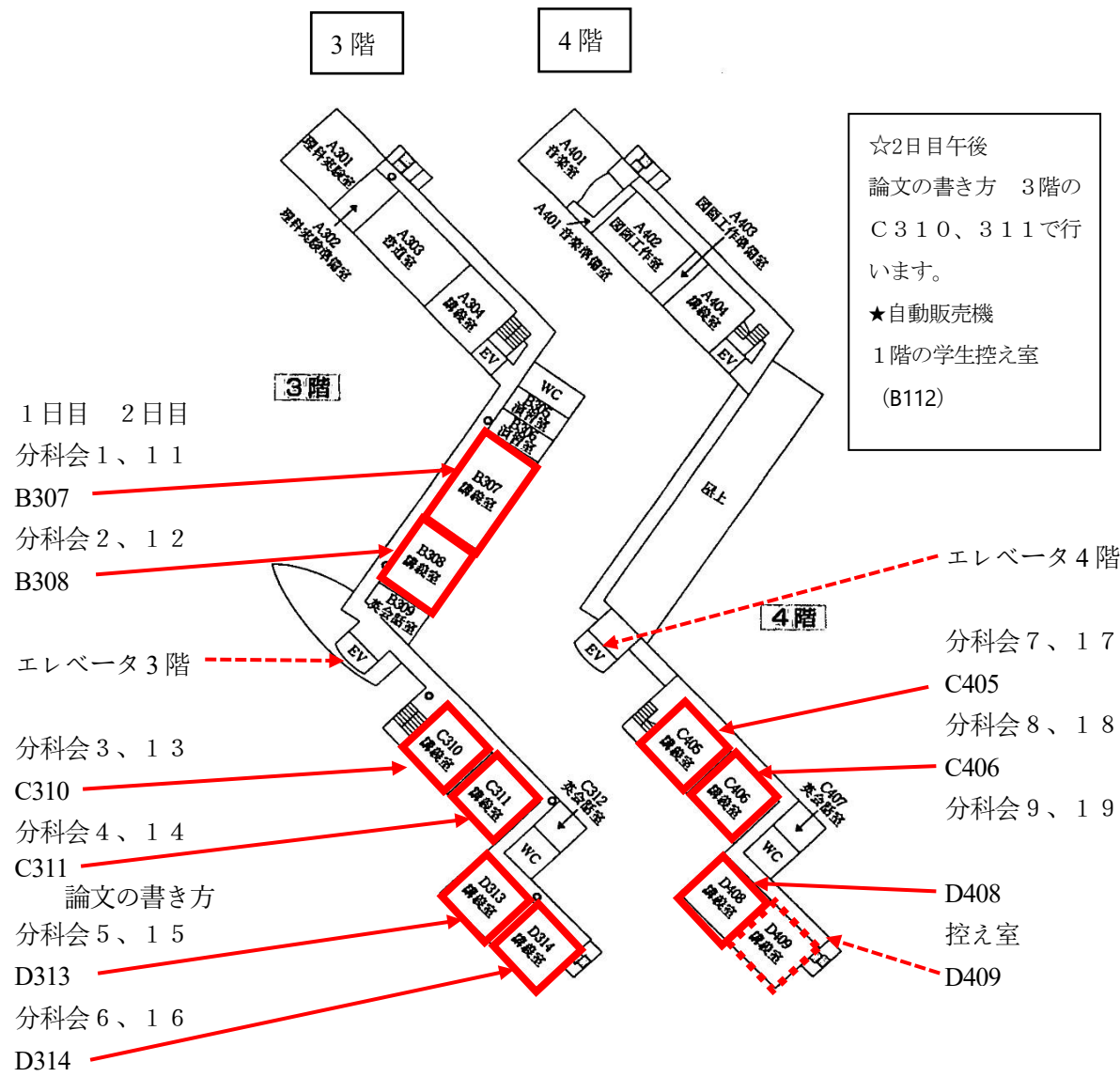
A棟・B棟・C棟・D棟ありますが、すべて中でつながっています。

教室番号の前の「C 3 1 0」のように記載されています。

正面エレベータで降りて、左側がB棟で、右側がC棟、D棟です。

階の名称が、地上階のG階から始まります。

| 学部棟 |           | 1日目 (6月15日) | 2日目 (6月16日) |            |
|-----|-----------|-------------|-------------|------------|
| G階  | ロビー       | 受付          | 受付          |            |
| 1階  | 理事会(B120) |             |             | 自動販売機 B112 |
| 2階  | 大会本部      | C209        | C209        |            |
| 3階  | 自由研究発表    | 分科会 1～6     | 分科会 1 1～1 6 | 論文の書き方     |
| 4階  | 自由研究発表    | 分科会 7～9     | 分科会 1 7～1 9 |            |



会場図ー 2 大学会館 Spirit

大学会館

1階 ロビー 書籍展示販売コーナー

食堂 昼食 1日目、2日目ともに、オープンしています。

情報交換会(17:30-19:00) 食堂で実施します。

3階 Spirit(大講義室)

中会議室 (1) (2)

小会議室

